

## 令和 6（2024）年度 資源評価調査状況報告書（拡大種）

### クエ九州北西・山口海域

対象水域	九州北西・山口海域	参画機関名	水産研究・教育機構 水産技術研究所 管理部門・沿岸生態システム部・生産 技術部、山口県水産研究センター外海 研究部、長崎県総合水産試験場、佐賀 県玄海水産振興センター、福岡県水産 海洋技術センター
------	-----------	-------	---

- ・ 令和 5 年度資源評価調査報告書を公表済み（[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends\\_2023\\_141.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_141.pdf)）、次回令和 8 年度を予定

#### (1) 調査の概要

- ・ 参画機関は精密測定等の生物情報収集調査を実施
- ・ 各県は県内調査対象市場または代表漁協または代表港における漁獲情報収集調査を実施
- ・ 本年度は資源評価調査報告書の作成は行わず漁獲統計等の更新および関連情報の収集を実施

#### (2) データ収集状況

- ・ 機構および各県において合計52個体の精密測定を実施
- ・ 電子標識放流個体2尾が再採捕されロガーデータから移動生態に係る解析を実施中
- ・ 山口県では2013年～2023年の調査市場における漁獲量を収集済み  
2024年以降の調査市場における漁獲量を収集中
- ・ 長崎県では2016年～2023年（県北・対馬地区）、2019年～2023年（壱岐地区）、2020年～2023年（五島地区）、2021年～2023年（西彼地区）の代表漁協における漁獲量を聞き取りにより収集済み  
2024年以降の代表漁協における漁獲量を聞き取りにより収集中
- ・ 佐賀県では2009年～2023年の調査市場における漁獲量を収集済み  
2024年以降の調査市場における漁獲量を収集中
- ・ 福岡県では2012年～2023年の代表港における漁獲量を収集済み  
2024年以降の代表港における漁獲量を収集中

#### (3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：中国福建省、台湾北部から東シナ海、朝鮮半島南部、日本沿岸域に分布する（Craig et al. 2011、Hoshino et al. 2024、備考参照）。日本では、九州から新潟県佐渡島までの日本海沿岸、房総半島までの太平洋沿岸（瀬能 2013）に分布する。南西諸島の東シナ海側でも稀に漁獲がある（奥山 私信）。生息地への固執性が強い

と考えられるが、野生個体の回遊生態は不明である。人工種苗の標識放流により、佐賀県相賀地先で放流した個体が島根県出雲市沖で再捕された例がある（藤崎・山口 2014）。また長崎県福江島で放流した種苗が山口県角島で再捕された例もある（中川ほか 私信）

- (2) 年齢・成長：令和 5 年度資源評価調査報告書を参照 ([https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends\\_2023\\_141.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_141.pdf))
- (3) 成熟・産卵：同上
- (4) 被捕食関係：同上

#### (4) 備考

クエの学名は長らく *Epinephelus bruneus* と *E. moara* が混在して使われてきた。Liu et al. (2013) は、クエ類は形態的・遺伝的に異なる 2 種から成ることを示し、東アジア・日本に分布する種（北方型=クエ）に *E. moara*、南シナ海を中心に分布する種（南方型）に *E. bruneus* の学名を充てた。しかし Hoshino et al. (2024) によって、クエの有効名は *E. bruneus* であり *E. moara* はその新参異名であることが示され、南方型は未記載種であり、新たに学名 *E. randalli* を命名して新種として報告され（併せて標準和名「ミナミクエ」を提唱）、クエの学名に纏わる混乱は解決したと思われる。しかし、このような経緯から、IUCN の Red List 報告書をはじめ、各種学術論文・書籍では、両者が混在あるいは入れ子になって報告されており、クエ (*E. bruneus*) の分布域に関する情報は未だ混乱している。本報告では、Hoshino et al. (2024) に準じて、クエ (*E. bruneus*) の分布域南限は中国福建省・台湾北部以北とする。

#### (5) 引用文献

- Craig, M. T., Sadovy de Mitcheson Y. J., and Heemstra P. C. (2011) Groupers of the World. A Field and Market Guide. NISC Ltd., Grahamstown, 97-99.
- 藤崎 博・山口忠則 (2014) 定着性魚類栽培漁業化促進調査. 平成 26 年度佐賀県玄海水産振興センター業務報告. 34
- Hoshino, K., Senou, H., and Nguyen, V.Q. (2024) Taxonomic status of the commercially important grouper, *Epinephelus bruneus* and *E. moara* (Osteichthys: Perciformes: Epinephelidae), with the redescription of *E. bruneus* and the description of a new species. *Species Diversity* 29: 389-407
- Liu, M., Li, J.L., Ding, S.X. and Liu, Z.Q. (2013) *Epinephelus moara*: a valid species of the family Epinephelidae (Pisces: Perciformes). *Journal of Fish Biology* 82: 1684-1699.
- 瀬能 宏 (2013) ハタ科魚類. 日本産魚類検索全種の同定, 第三版, 中坊徹次(編), 東海大学出版会. 757-802.